

## 平成18年度 伊豆市決算概要

平成18年度の地方財政は、地方財政計画の規模の抑制に努めてもなお平成17年度に引き続き厳しい財政状況になりました。国は、「改革なくして成長なし」、「民間にできることは民間に」、「地方にできることは地方に」との方針の下、規制・金融・税制・歳出等の改革を推進するなど、各分野にわたる構造改革を断行することにより、経済活性化を実現し、民間主導の持続的な成長を図ることとしており、伊豆市におきましても徹底した行政改革を推進するとともに、歳出の徹底した見直しによる抑制を進めてまいりました。

平成18年度の主要事業の成果についてですが、新火葬場建設は、敷地造成工事も終わり、建設工事実施設計を委託し建設工事に取り組んでいます。建設工事は、平成19年度までの継続工事となっており、平成20年3月完成にむけ順調に進んでいます。

次に、天城北道路についてですが、現在、大平インターチェンジ側の工事が進められており、平成20年3月の供用開始に向け順調に進んでいます。アクセス道路の進捗状況ですが、大平インターチェンジ入口から日向側に道路工事が進められ、道路部分の用地買収も進めています。

教育関係ですが、小中学校の施設整備事業として、17年度に着工いたしました修善寺東小学校体育館改築工事が完了し、湯ヶ島小学校体育館についても耐震補強工事を実施いたしました。

なお、田方地区消防組合の南署については、造成工事も終わり、建設工事に着手し平成19年度中の完成予定となっています。

このほかの行財政改革の一環といたしまして、4月から温水プールや修善寺自然公園などについて「指定管理者制度」を適用し、効率的な行政運営を図って参りました。

会計ごとの決算では、老人保健特別会計においては、国の概算交付額が減額となるなどのため、375万円の歳入不足となったほか、天城ふるさと広場事業においても宿泊利用者の減少などにより887万円の欠損となりました。

平成18年度の地方財政状況調査における普通会計の決算状況では、

歳入決算額 16,152,322千円(前年度 18,515,049千円)

歳出決算額 15,208,807千円(前年度 17,163,623千円)

形式収支 943,515千円(前年度 1,351,426千円)

実質収支 812,413千円(前年度 1,280,000千円)

となり、実質収支では前年度に引き続き黒字決算となっています。また、標準財政規模に占める割合である実質収支比率は、前年度の12.2%から4.2ポイント下がる8.0%となり適正な水準を維持しています。

平成18年度一般会計の決算の概要について

平成18年度の一般会計は、4回の補正予算と前年度からの繰越事業予算などで、最終予算額は160億4,836万円となりました。このうち、天城北道路アクセス道整備工事など5億7,051万円が平成19年度への繰越となりました。

歳入決算額の主なものは、国庫支出金が災害復旧事業補助の減等により、前年度に比べ5億2,972万円少ない9億3,030万円に、市債においても、臨時財政対策債や災害復旧事業債等の減により、3億1,350万円減の12億2,570万円になりました。

また、市税収入額は、個人市民税が増加したものの、固定資産税の減により前年度に比べ2,918万円減となりました。また、不納欠損として市税で7,104万円、住宅使用料で246万円を処分しました。

一方、歳出決算額は150億5,655万円で93.8%の執行率となっています。前年度との比較では、災害復旧費が7億8,405万円減の1億3,676万円、税還付金や選挙経

費の減により、総務費が1億1,806万円減の19億9,924万円、小学校体育館の改築、耐震事業費の減等により教育費が1億7,931万円減の17億2,523万円となるなど、総額で14億2,926万円の減額となりました。

なお、民生費、衛生費、土木費、災害復旧費において事業実施が翌年度に繰り越されたことなどのため、平成19年度に繰り越した財源を差引いた実質収支は8億787万円の黒字となりました。